

《 V 学生支援 》

1 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

本学の建学の精神・教育理念・教育目標をよく理解した入学志願者を求めているため、学科ごとに設定したアドミッション・ポリシーに沿った入学試験を行っている。そして、教育研究・学習内容、海外留学、就職状況、入学金・授業料、奨学金の種類、入学試験の方式等の具体的で正確な情報を高校生、保護者、高校現場に提供している。その方法は、以下の通りである。

- ①制作物として、短期大学案内、入試要項、AO入試要項、過年度入試問題集、受験生専用ホームページ (SMiLE navi WEB)、受験生向け月刊誌 (SMiLE navi 大学短大共通)、各種ポスター・チラシ等。
- ②実施イベントとして、オープンキャンパス (7・8月に計5回開催)、高校教員対象説明会 (6月に開催。神戸・大阪・高松) 等。
- ③参加イベントとして、高校・予備校・業者主催の分野別説明会や合同進学相談会、模擬講義。
- ④高校・予備校への訪問説明、高校等の要請に応じる出張講義。
- ⑤テレビCM。
- ⑥受験雑誌、新聞、ダイレクトメール等。

◆添付資料3 (再掲) 「神戸女子大学・神戸女子短期大学 Guide Book 2009」参照。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法 (推薦、一般、AO入試等) をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜は、能力・適性等を公平、公正かつ妥当な方法による判定と受験生の個性を大切にすることを旨とし、高校教育の妨げにならない日程に留意して実施している。

一般入試前期Aスタンダード型は5教科7科目中、受験した2科目の得点の合計200点満点で判定している。同前期A得意科目重視型では採点后、高得点の科目を2倍に換算した合計300点満点で判定する。翌日実施の一般入試前期B1は午前中に2科目200点満点で実施、午後実施の一般入試前期B2は得意科目重視型で2科目のうち高得点の科目を2倍に換算した300点満点で行う。3月に行う一般入試後期も同様で、2科目200点満点で判定するスタンダード型と2科目受験して高得点の科目を2倍に換算した合計300点で判定する得意科目重視型を実施している。

大学入試センター試験利用入試は前期日程、後期日程共に2教科2科目の素点で合否を判定している。

AO入試は、まずオープンキャンパスに参加し、エントリーシートを取得しなければ

受験できない手続きになっている。これは、AO入試においては、受験生本人と何度も対話することが大切だというアドミッション・ポリシーに基づいている。課題は学科により異なるが、オープンキャンパスへの参加、学科所属専任教員との対話、エントリーシート提出を経てAOプログラムに参加、AO課題提出を経て一次判定、一次通過者に対する二次面接試験という段階を踏んで、慎重に選考する制度にしている。

指定校特別推薦入試は本学指定の高等学校長推薦の受験生を書類審査と面接で、公募制推薦入試では高等学校長推薦の受験生を書類審査と前期Aでは2科目、前期Bでは1科目の学科試験で合否を判定する。この他、総合基礎マーク式推薦入試や自己推薦入試、ファミリー推薦入試、社会人特別入試を含めた全入試の詳細は、大学案内や入試要項等の各種制作物やホームページ、またオープンキャンパス等の各種説明会で明示している。

◆添付資料4「神戸女子大学・神戸女子短期大学 入試要項 2009」参照。

◆参考資料40「平成21年度(2009年度) AO入試エントリーガイド」参照。

(3) 広報及び入試事務についての体制(組織等)の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

行吉学園は、神戸女子短期大学・神戸女子大学を含めた学園全体の入試と広報を担当する事務組織としての法人本部入試広報部、及び教学組織としての入学試験委員会によって学生募集に係る業務に対応している。この組織を踏まえ、入学試験委員長と入試広報部長の責任体制のもとで、教職員の協同による厳正な入試業務を行っている。

法人本部入試広報部は須磨キャンパスに置き、神戸女子短期大学での入試・広報への対応はポートアイランドキャンパスの庶務課職員が兼務すると共に、入試広報部職員が定期的に駐在して、受験生が見学を訪れた際に説明や案内をする体制を整えている。

入試広報活動はすべて神戸女子短期大学と神戸女子大学を一括し、オープンキャンパス、高校訪問、進学相談会、見学会では、短期大学と大学を同時に紹介している。大学案内の作成、宣伝媒体誌への広告についても短期大学と大学を併記している。

志願者が神戸女子短期大学の案内書や願書を請求した場合、現在はインターネットからの請求であれば最短2~3日で手元に配付する体制をとっており迅速に対応している。また、志願者からの問い合わせについては、電子メールや電話及びファックスによる対応もしている。

願書受付期間中は、本学のホームページで志願状況を日々更新しており、志願者は随時確認することができる。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1) 願書受付から合否通知までの流れ(一般入試前期A・B1・B2)

- ① 入学志願票は、「入試要項」と共に無料で受験生に配布
- ② 受験生は、入学志願票を提出
- ③ 受験票の発行
- ④ 入学試験を実施。本学試験場は当日、地方試験会場分は翌日にOCRで採点
- ⑤ 成績順位を出し、合否判定資料を作成
- ⑥ 入試委員会で合否判定案の策定
- ⑦ 短期大学教授会で合否判定を審議、決定
- ⑧ 合否通知書を作成・発送
- ⑨ 入学手続

2) 多様な選抜の公正かつ正確な実施

① 入学者選抜試験実施体制の適切性

入学者選抜試験実施の責任体制を明確にし、適切な受験環境を確保し、入試ミスや事故の無いよう実施するために、入学試験実施要項に従い入学試験実施本部を置いて、教学・法人の協力による全学体制を組織して入試を実施している。

② 入学者選抜基準の透明性について

大学の教育理念・教育内容を踏まえた入学者受入方針に基づいた多様な選抜を公平に実施するため、入学者選抜基準を明確にして公表している。

③ 入学選抜方法（入試問題）の検証について

近年、入学者選抜における出題、合否判定ミスに社会の厳しい目が向けられており、その防止に本学をあげて万全を期している。本学で利用する入試問題は、各分野から選出された専任教員によって作成されている。作成過程で出題ミスが出ないように、作問グループ内で検討を繰り返した上で入試を実施している。

④ 定員の管理

入学者受入数は、設置基準で定められた入学定員、収容定員、在籍者数を遵守し、文部科学省、厚生労働省の指導に従って決定している。定員の管理は、教育の質の確保及び安定した大学経営と発展を図る観点から検討し、現在、教学・法人との協議・合意に基づいて適切に行われている。本学における学生収容定員と現在の在籍学生数の比率は、概ね適切と考えている。

◆ 添付資料 4（再掲）「神戸女子大学・神戸女子短期大学 入試要項 2009」参照。

◆ 参考資料 40（再掲）「平成 21 年度(2009 年度) AO入試エントリーガイド」参照。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

各学科共に、指定校特別推薦入試及びAO入試の早期合格者に対して学科が指定した課題図書を送付し、期日を設けて課題レポート等の提出を義務づけている。提出されたレポートは学科の専任教員全員が閲覧し、コメントと入学に向けた激励を添えて返却している。その際には、学科のカリキュラムや学生生活について入学前に情報提供する目

的で過年度の「学生便覧」を同封している。推薦前期の合格者には、11月の学園祭への参加を案内し、学園の雰囲気慣れ、在学生との交流ができるよう配慮している。

◆参考資料 41「平成 21 年度 合格者のしおり」参照。

(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

新入生には入学時に「オリエンテーションのしおり」を配付し、スケジュールにしたがって2日間のオリエンテーションを行っている。主な内容は、学科全般の説明、クラス担任・副担任・学科教員の紹介、また「学生便覧」を用いて、諸手続、学生部関係、教務部関係（履修方法など）、図書館利用、キャリアサポート（就職・進学）等の説明を行っている。学科全体のオリエンテーションの後には、クラス単位のホームルームを行い、履修指導や必要なクラス委員の選出を行ってから、学園生活に早く慣れ、学生間の親睦を図る目的で、どの学科もティータイムの時間を設定している。この時間は、学生同士またクラス担任・副担任が茶菓を楽しみながら、くつろいだ気分で懇談し、好ましい人間関係をつくるための第一歩として役立てている。

◆参考資料 42「平成 21 年度 オリエンテーションのしおり（1年次生用）」参照。

2【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

<総合生活学科>

新入生に対しては、入学時のオリエンテーションとその後のホームルームで履修登録の時間を設け、クラス担任・副担任が個別に履修指導を行っている。在学生に対しては、前・後期の授業開始の前日を登学日とし、履修についてクラス担任・副担任が各学生にアドバイスを行っている。また週1回のホームルームでも、履修や学習の方法等について必要な指導をしている。特に学習についてのガイダンスについては、1年次生に対して、短期大学での学習を充実させるための「学問へのアプローチ」の科目を設定し、学科内の3グループの特徴の説明と学習方法、レポートの書き方など、学修の基礎力向上に重点を置いた専任教員のオムニバス形式による指導を行っている。

<食物栄養学科>

学習や科目選択のためのガイダンスは、1年次生では入学時オリエンテーションとその後のホームルームで、2年次生については新年度オリエンテーションとホームルームで実施している。特に1年次生には、栄養士だけでなく、栄養教諭、フードスペシャリスト等の諸資格に必要な単位取得やその意義について詳細な説明を行っている。

学期途中には、栄養士の仕事や現場の様子が具体的にイメージできるよう、栄養士として働く卒業生と企業の人事担当者による就職支援講座を開くと共に、学生生活を有意義に過ごすための対策を立てている。

<幼児教育学科>

前・後期の授業開始日の前日に、1・2年次生共にホームルームを行い、クラス担任・副担任が学生便覧、授業計画書・シラバスを用いて、各自の進路に応じた科目選択が行われるようきめ細かく指導している。本学科では、進路希望先が保育園・幼稚園・小学校への就職、専攻科への進学、神戸女子大学や他大学への編入など多岐にわたるため、将来の志望に合わせた個別の履修アドバイスをクラス担任・副担任が行っている。

<専攻科保育専攻>

履修手続きは、初等教育学科で経験があるため比較的円滑に進んでいる。科目選択については、学生便覧の「専攻科保育専攻カリキュラム」に基づいて予め学生自身が計画を立て、クラス担任・副担任と相談しながら履修計画を立てる登録方法をとっている。

◆添付資料1(再掲)「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」参照。

(2) 学習や科目選択のための印刷物(学生便覧等を除く)があれば参考資料としてご準備下さい。

「授業計画書・シラバス」が新年度オリエンテーション時に配付される。

また、単位互換制度に関する資料として、「神戸ポートアイランド4大学連携単位互換履修生募集ガイド」及び「単位互換科目一覧表」が配付される。

◆添付資料2(再掲)「2009 授業計画書・シラバス」参照。

◆参考資料43「2009年度神戸ポートアイランド4大学連携単位互換履修生募集ガイド」参照。

44「平成21年度 単位互換科目一覧表」参照。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

<総合生活学科>

毎回の授業において教員は学生にとって理解がしやすい授業を工夫し、個別の学生の質問に積極的に応じたり、授業後の補充的な学習を勧めたりしている。現在、特に組織的な補習授業等は行っていない。

<食物栄養学科>

高校で生物・化学を履修していない学生へのリメディアル教育として「やさしい生物」「やさしい化学」を開講している。栄養学の基礎として生物・化学の知識は不可欠であるため履修指導時に受講を勧め、学校教員経験のある非常勤講師が科目を担当している。

<幼児教育学科>

今のところ、集団での学習が困難な学生はなく、基礎学力不足に対して特別の組織的取組みは行っていない。科目の学習によって、学生からの申し出がある場合や、クラス担任から補充的な要請がある場合には、科目担当者が個別に必要な支援をしている。

<専攻科保育専攻>

これまで特に基礎学力不足を感じる学生はいないが、再試験の対象者には、科目担当

教員が個別に助言と指導を行っている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

<全体として>

学生部の学生支援委員会が、学生全体に関わる学習や生活上の問題について情報収集し、必要な対策を講じている。また3学科と専攻科共にクラス担任・副担任制によって、週一度のホームルームと個別指導また前・後期当初の個人面談によって、学習上の問題や悩みに対して指導助言する仕組みを整えている。

健康問題その他への対応については、学生生活支援センターを設置し、保健室の保健師及び学生相談室の臨床心理士が個別の悩みや相談に対応している。ケースに応じて、クラス担任・副担任、学科長、事務職員等と連携をとり、学生が心身共に健康な生活を送れるよう協同の支援体制をとっている。

<総合生活学科>

1クラス20人前後の少人数編成によって、クラス担任・副担任が学生生活全般にわたる指導を行っている。クラス担任は、履修状況(欠席3回で授業担当者が通知)、追再試験の状況や成績の把握、個人面談による指導を行っている。2年次の「総合生活演習(ゼミ)」(必修)では、専門分野について一教員が10人前後の学生を毎週指導している。

<食物栄養学科>

学生個別の悩みの相談には学生相談室が対応しているが、それに至るまではクラス担任・副担任が悩みの相談を受け、必要な場合は保護者と相談して指導助言を行っている。ケースによっては、部科長会や委員会で検討し、適切な対応に努めている。

<幼児教育学科>

毎週のホームルームで、クラス担任・副担任が学生への指導助言と相談に応じている。また、ゼミ指導教員が学生生活の指導助言にあたっている。授業内容に関しては教科担当教員の研究室を随時訪問し、相談や助言が受けられるようにしている。

<専攻科保育専攻>

専攻科もクラス担任・副担任制をとっており、学生は学業に係る問題や悩み等について相談し、助言を受けることができる。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

<全体として>

優秀学生に対する学習支援の一環として行吉学園奨励奨学制度があり、授業料及び教育・施設充実費の一部が免除される特典がある。

<総合生活学科>

V 学生支援

4年制大学編入希望の学生に小論文や英語力向上のための支援を行っている。高度な英語力を望む学生のための英語科目や高度な技術の修得を目指す情報関連科目も開講している。特に学修意欲の高い学生に対してはフードスペシャリスト、国内旅行業取扱管理者、秘書技能検定、インテリア設計士、英語検定等の資格取得を勧めている。平成20年度には、衣服デザインに優れた学生に国内コンクールへの応募を勧めて入賞した。

<食物栄養学科>

4年制大学への編入や管理栄養士を目指す学生に、本学卒業生を対象とする管理栄養士国家試験対策講座の受講を勧めて学修のモチベーションを高めると共に、学力向上のための支援を行っている。

<幼児教育学科>

進学希望の学生や優秀な学生には、科目担当やゼミ担当の教師が語学、専門科目、実技、論文指導等の個別指導を行っている。また、学科として学習内容を広げたり深めたりする読書を奨励するために、学科の読書奨励賞制度を設けて表彰している。平成18年度は1人、19年度は6人、20年度は3人が受賞した。

<専攻科保育専攻>

進度が早く優秀な学生に対して、科目担当教員が本学や他大学教員の研究論文や公開研究会等を紹介して、教員と共に学ぶ機会を設けている。

◆参考資料 35 (再掲)「学校法人吉学園奨学事業に係る授業料免除・奨励金授与規程」参照。

3【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

1) 学生支援委員会

学生部の中に組織された委員会で、学生生活全般に関わる諸問題に対処し、よりよい学生生活のための支援を目的とする。

- ① 食堂改善部会：学生のアンケート等を基に、食堂の献立等の改善を目的とする。
- ② 国際交流部会：ハワイ大学語学研修参加者への指導と支援を目的とする。
- ③ ブルーム展部会：学生が参加する制作展の企画準備を担当する。
- ④ 学友会部会：学生の自治組織である学友会を支援する。学友会主催のスポーツ大会や学園祭の運営の支援、助言を行う。

2) 保健管理委員会

学生の健康管理と保健衛生に関する事項を担当する。

3) 学寮

本学の春日野道寮における生活全般について指導と支援を行う。

4) クラス担任制

学生がよりよい学生生活を送ることができるよう、クラス担任・副担任が科目履修、生活全般に関わる指導と相談に応じることを目的とする。

5) 学生部懇話会

学友会部会が主催する教職員との懇話会で、学生生活を充実させるための学生の生

の声を聞く場である。これには理事長、学長も同席して学生からの率直な提案を聞き、その検討結果は後日、実施できるもの、できないものに分けて公表している。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

1) クラブ活動(クラブ団体一覧)

クラブ名 (文化系)	顧問	部員数(人)			クラブ名 (体育系)	顧問	部員数(人)		
		18年度	19年度	20年度			18年度	19年度	20年度
人形劇部	矢木	15	10	11	バスケットボール部	今本	9	10	18
茶道部	平野、長谷川	20	21	10	バレーボール部	米山	9	8	17
華道部	西川	6	12	10	ソフトテニス部	羽多	14	16	20
箏曲部	松浦	0	0	0	バドミントン部	田中	16	14	20
栄養研究部	山本	10	6	9	ダンス部	別所	5	4	0
社会福祉部	畠山	12	18	16	剣道部	入江	3	2	0
書道部	森内	2	5	6	テニス部	武藤	17	8	5
美術部	林、長谷川	0	2	0	卓球部	岩中	11	8	0
英米文学部	谷山	5	3	8	サッカー部	奥野	2	0	0
E S S	谷山	5	2	8	ゴルフ同好会	浅木森	4	5	0
パンクラブ	細見	15	16	27	陸上競技同好会	米山	0	0	0
コーラス部	宮内	24	25	7	フットサル同好会	水島	24	13	15
アンサンブル部	廣田	9	10	11					
バンドクラブ部	新谷	3	5	5					
映像メディア同好会	林	0	0	0					
エアポート・エコ同好会	中川	11	14	24					

各クラブ顧問が学生の活動を支援している。エアポート・エコ同好会は定期的に神戸市内の祭りや神戸空港のイベントに参加、社会福祉部は近隣の病院でのクリスマス会に参加、人形劇部は幼稚園で上演活動を行うなどの地域ボランティア活動も行っている。

学園行事としてはスポーツ大会、ブルームフェスティバル（学園祭）がある。学友会役員、各クラスの委員が中心となって企画・運営を行っている。その際、学生部担当の教職員が学生と一体になって活動するのが本学の伝統であり、学生とのコミュニケーションを図ると共に、相互の信頼関係を醸成する場となっている。

この他に、ポートアイランド内に隣接する4大学と合同で通学路を清掃するボランティア活動があり、学友会役員を中心とする学生が参画している。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

1) 学生休息施設・空間

学生が憩う施設としては食堂が中心である。A館3階以上のエレベーター前と教室間にあるホールにテーブル、ソファを設置し、学生が利用することができる。今後、センターホールにも椅子、テーブルを増やす計画である。

V 学生支援

2) 保健室

学生支援センター組織として保健室があり、専任の保健師が常駐している。ベッド数は2床で、学生の健康管理また健康相談の室として機能している。

3) 学生相談室

C館4階の学生相談室に、臨床心理士が火曜日を除く平日に常駐している。学生が自主的に来室するケースと教員や保健師から紹介された学生が訪れるケースがあり、心身両面の相談に応じている。

4) 学生食堂

1階にテーブル31台166席、2階にテーブル42台230席、合計396席を設置している。平成21年度に神戸女子大学健康福祉学部の学生数が増えたため、増設を検討している。業務は外部業者に委託し、アンケート用紙を常時設置して利用者の要望に対応している。食堂改善部会も、これとは別のアンケートを実施し、要望に対応している。物価高騰の余波を受けて利用者が減少したため、運営上の課題となっている。

5) 売店

食堂内にあり、委託した外部業者が運営している。近隣にコンビニストアがあり、学生の利用は多くない。魅力ある品揃えを工夫する等、活性化の方策が課題である。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

学園として、自炊形態の学生寮1棟を設置している。寮室は51室（1人部屋42室、2人部屋9室）、収容定員は60人で、現在68.3%の入居率である。24時間態勢で寮監を配置し、寮生が安心して生活できるよう配慮している。

下宿・アパート等の宿舍の斡旋に関しては、学園本部の事業課が紹介物件を一括管理しており、事業課と学生課間で情報交換を行い、学生課において下宿情報を学生に提供している。本学が斡旋する下宿等は、推薦下宿と一般下宿に区分している。推薦下宿は本学が掲げる条件をすべて満たしている物件、一般下宿は推薦下宿の条件を一部満たしていないものの安心して生活できる環境であると判断できる物件としている。

通学については、キャンパスが最寄駅から徒歩5分であるため特段の便宜は図っていない。付近に大型車両の交通が多い道路があり、安全のために自動車及びバイク通学は禁止している。

(5) 平成20年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

1) 独立行政法人日本学生支援機構奨学金

平成20年度 日本学生支援機構奨学金 取得状況

所属	第一種	第二種	計(人)
短期大学	93人	207人	300人

2) 行吉学園奨学制度

本学では、社会や本学園の発展に寄与する優れた人材を育成するため、特別に授業料等を免除する奨学制度を設けている。

①奨励奨学制度

全学生の範となる学業優秀、品行方正な者及び学内外において顕著な業績が認められる者を対象とする。(1年次後期から対象となる。) 免除金額は10万円。

②援助奨学制度

在学期間に経済的理由により学業継続が困難となった者を対象とする。(1年次を修了した者を対象とする。) 免除金額は授業料及び教育・施設充実費の半期分。

平成20年度 行吉学園奨学金 取得状況

	奨励奨学生	援助奨学生	計
1年次生	15人	0人	15人
2年次生	30人	4人	34人
計	4,500,000円	2,120,000円	6,620,000円

◆参考資料 35 (再掲)「学校法人行吉学園奨学事業に係る授業料免除・奨励金授与規程」参照。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理(健康診断・健康相談・応急処置等)は、保健室に保健師1人が常勤し対応している。保健室利用状況は年々増加傾向を示し、平成20年度は1,572件(平成19年度は1,590件)であった。学生定期健康診断は、毎年度4月のオリエンテーション期間に、検診機関の協力を得て実施している。検診項目は、学校保健法に基づき、全学生対象に保健調査・内科検診・身体計測・視力測定・胸部X線撮影である。過去3ヶ年の定期健康診断受診状況は、平成18年度99.4%、平成19年度99.7%、平成20年度99.7%と100%に近い受診率である。健康診断の結果、有所見となった学生に対しては、個別に健康相談を実施している。特にBMIによる痩せすぎ(BMI 17.6以下)の学生に対しては、身体面・精神面の両面に配慮したきめ細かい援助を実施している。また学校医による定例の健康相談を月1回実施している。

メンタルケアやカウンセリング体制については、保健室とは別に学生相談室を設置し、週4日間(月・水・木・金)、専任の臨床心理士1人が担当している。そして、保健室の保健師・クラス担任と緊密に連携をとりながら学生の相談に応じている。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

学生支援のための学生個人情報、次の通りである。

①学籍データ

教務課・学生課が所管し、コンピュータでの保管・管理を行っている。学園のコンピュータには、学園として厳重なセキュリティを施している。

V 学生支援

② 身上書

学生課が所管し、入学時に学生が記入した紙媒体を施錠保管庫で厳重保管・管理している。必要に応じて、クラス担任に開示している。

③ 成績データ

教務課が所管し、コンピュータでの保管・管理を行っている。コンピュータには厳重なセキュリティを施し、管理に万全を期している。

④ 就職（進路）カード

キャリアサポートセンターが所管し、就職ガイダンスで学生が記入した紙媒体を施錠保管庫で厳重保管・管理している。

⑤ 健康調査票、健康診断結果票

保健室が所管し、施錠保管庫において紙媒体を保管・管理している。健康調査票は入学時のオリエンテーションで学生が記入したもの、健康診断結果票には入学時及び2年次の定期健康診断の結果が記録されている。

◆ 参考資料 45 「身上書」 参照。

46 「就職（進路）カード」 参照。

47 「健康調査票」 参照。

4 【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成18年度～20年度 総合生活学科の進路状況表 (平成21年3月31日現在)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
a 卒業者数	131人	98人	136人
b 就職希望者数	b/a 98人 (74.8%)	80人 (81.6%)	88人 (64.7%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b 48人 (49.0%)	32人 (40.0%)	48人 (54.6%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b 43人 (43.9%)	40人 (50.0%)	20人 (22.7%)
e 就職未定者	e/b 7人 (7.1%)	8人 (10.0%)	20人 (22.7%)
f 進学・留学希望者数	f/a 14人 (10.7%)	8人 (0.8%)	11人 (8.1%)
g その他	g/a 19人 (14.5%)	10人 (10.2%)	37人 (27.2%)

平成18年度～20年度 食物栄養学科の進路状況表 (平成21年3月31日現在)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
a 卒業者数	182人	174人	194人
b 就職希望者数	b/a 129人 (70.9%)	130人 (74.7%)	135人 (69.6%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b 80人 (62.0%)	73人 (56.2%)	73人 (54.1%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b 41人 (31.8%)	49人 (37.7%)	42人 (31.1%)
e 就職未定者	e/b 8人 (6.2%)	8人 (6.1%)	20人 (14.8%)
f 進学・留学希望者数	f/a 39人 (21.4%)	27人 (15.5%)	31人 (16.0%)
g その他	g/a 14人 (7.7%)	17人 (9.8%)	28人 (14.4%)

平成 18 年度～20 年度 幼児教育学科（初等教育学科）の進路状況表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区 分	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
a 卒業者数	96 人	88 人	58 人
b 就職希望者数	b/a 55 人 (57.3%)	16 人 (18.2%)	16 人 (27.6%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b 35 人 (63.7%)	8 人 (50.0%)	8 人 (50.0%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b 18 人 (32.7%)	7 人 (43.8%)	5 人 (31.3%)
e 就職未定者	e/b 2 人 (3.6%)	1 人 (6.2%)	3 人 (18.8%)
f 進学・留学希望者数	f/a 31 人 (32.3%)	64 人 (72.7%)	38 人 (65.5%)
g その他	g/a 10 人 (10.4%)	8 人 (9.1%)	4 人 (6.9%)

平成 18 年度～20 年度 専攻科保育専攻の進路状況表 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

区 分	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
a 卒業者数	—	—	41 人
b 就職希望者数	b/a —	—	37 人 (90.2%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b —	—	26 人 (70.3%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b —	—	11 人 (29.7%)
e 就職未定者	e/b —	—	0 人 (0.0%)
f 進学・留学希望者数	f/a —	—	2 人 (4.9%)
g その他	g/a —	—	2 人 (4.9%)

◆参考資料 48「進路状況表 平成 18～20 年度」参照。

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

平成 18 年度以前は、学生の就職を支援する就職指導部会と 4 年制大学への編入学を支援する進学指導部会に分かれて進路指導を行ってきた。事務的な面はキャリアサポートセンターが担当し、相互に連携を保ちながら学生への連絡、案内、指導等を進めてきた。しかし、学生の進路が多様化し、就職と進学に分けて業務を行うことに無理が生じたため、平成 19 年度より就職・進学を一本化して進路指導委員会と改め、キャリアサポートセンターと連携協力のもとで指導を行うようにした。以降は、この体制で学生支援を行い、就職・進学共に適切な支援ができています。組織は各学科から 1 人ずつの教員並びにキャリアサポートセンター課長の 4 人で構成し、学生の希望や就職・進学情勢の変化に機敏に対応している。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

キャリアサポートセンターには、「求人票ファイル」「50 音別の企業・施設等資料ファイル」「卒業生の受験報告ファイル」、地方の求人情報・ガイドブック、厚生労働省関係パンフレット、兵庫県内・県外の雇用対策（ハローワーク）情報、学生職業総合支援センターパンフレット、就職関係の図書・雑誌を配架している。キャリアサポートセンターでは、進学を含めた進路全般の支援をしているため、全国から送られてくる「編入学

資料」「専門学校資料」「編入試験問題ファイル」も配架している。

学生は、センター内外にある掲示板やパンフレット架のチラシや冊子を閲覧して進路情報を収集している。センター内には、パソコン5台・プリンター1台を設置しており、インターネットによる就職情報・進学情報の収集だけでなく、本学の新就職システムを利用して、本学で受付けた求人情報の検索やキャリアサポートセンターから学生への情報の受信、及び学生の自宅から送信できるようになっている。

(4) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

<総合生活学科長>

本学科の就職率は平成18年度92.9%、19年度90.0%、20年度77.3%となっており、現在の経済状況からみれば好ましい状況にある。就職先は製造、卸売・小売、金融・保険、医療、サービス業に多く就職している。これは、キャリアサポートセンターとクラス担任やゼミ担当教員が連絡を密にして、学生の就職のための指導と支援を行っている成果と考えている。今後は、旅行業務取扱管理者、秘書士等の諸資格を積極的に活かしながら、学生の希望と適性に合った就職ができるよう支援するつもりである。

<食物栄養学科長>

本学科の就職率は、平成18年度93.8%、19年度93.8%、20年度は85.2%となっており、ほぼ安定した結果を残している。進路先については、委託給食、製造、卸売・小売に進む者が多いが、栄養士関連の就職者が減少していることが課題である。入学当初から栄養士での就職を希望しない学生が20%程度いることも近年の傾向である。過去は栄養士関連の就職者が60%程度であったが、現在は40%程度に留まり、栄養士として就職意識を高めるプログラムを展開する必要性が生まれている。具体的には、職場と連携したインターンシップの導入などを検討している。就職先は増加の傾向にあるが、地方企業の開拓が課題であり、キャリアサポートセンターと連携した整備が必要である。

<幼児教育学科長>

幼児教育学科の前身、初等教育学科の就職状況は平成18年度96.4%、19年度93.8%、20年度82.0%となっている。但し、平成19年度及び20年度には卒業生の多くが本学に新設された専攻科保育専攻に進学している。また初等教育学科では例年、神戸女子大を含めた4年制の大学に進学する学生が多いのも特徴である。卒業時に就職先が未決定の学生がいる場合には、クラス担任とキャリアサポートセンターが中心となり、卒業後も継続して就職支援を行っている。主な就職先としては、多くの学生が入学当初に目標としていた免許状・資格取得の成果を活かした小学校（本採用・臨時採用）、幼稚園（公立・私立）、保育所（園）（公立・私立）が挙げられる。今後も、進路指導担当者を中心とした本学科教員とキャリアサポートセンターとの連携により、学生の希望と適性に合った就職ができるよう支援していきたいと考えている。

<専攻科長>

専攻科保育専攻の第1期生である平成20年度卒業生の就職率は100%であり、多くの

学生が専攻科の学修を活かした就職をすることができた。また、更に専門性の高い教育を受けるため、神戸女子大学文学部教育学科に1人、専門学校に1人が進学した。本学の専攻科は、高い専門性を身に付けた実践的指導力のある保育士の養成を目指しており、この観点からみても初年度としては一定の成果がみられたと考えている。今後は、就職先から卒業生に対する率直な評価を受け、地域社会の要請に応えうる人材の育成に努めていきたい。

<学長>

いずれの学科も就職率は高率を維持できており、本学の卒業生が社会で受け入れられていることを示している。今後も高い評価を維持するためには、専門性を活かした職場へもっと就職することが重要になる。そのため、キャリアサポートや国家試験対策の指導等を更に徹底し成果を上げる必要がある。

(5) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

1) 卒業生に対する進学者数

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
卒業生数	409人	360人	429人
進学者	84人	100人	80人

2) 進学者進学先状況

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
4年制大学	63人	52人	41人
(うち併設大学)	21人	33人	16人
短期大学専攻科	1人	42人	28人
(うち併設短期大学)	—	42人	28人
専門学校	20人	6人	11人
その他の学校	0人	0人	0人
合計	84人	100人	80人

3) 海外留学者の実績

該当なし。

4) 進学の支援体制

短期大学は2年間の課程であり、短期間に卒業後の進路選択を迫られる学生生活を送っている。以前から神戸女子大学を含めた4年制大学への編入学希望者が多く、平成20年度からは本学の専攻科保育専攻に多く進学している。

進学の支援体制として、1年次11月の「進学ガイダンス」で受験全般について、1年次12月と2年次5月に「神戸女子大学編入学説明会」を実施し、各学科主任による詳細説明と質疑応答・相談の機会を設けている。更に、1年次12月に学外講師による「大学編入ガイダンス」を実施し、進学への理解と受験対策を支援している。また、4年制大学に編入学後の単位修得を円滑に進めるため、本学在籍中の科目履修・単位修

V 学生支援

得についてキャリアサポートセンターと教務課が連携して相談・説明を行っている。

5【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況(平成18年度～20年度)

種別	平成18年度	平成19年度	平成20年度	計
留学生(人)	0	0	0	0
社会人(人)	0	1	3	4
帰国子女(人)	制度なし			
障害者(人)	1	1	0	2
長期履修学生(人)	制度なし			
科目等履修生(人)	2	1	6	9

*社会人の定義(社会人特別入試の受験資格)

- ・(入学年度の)4月1日現在、満23歳以上の女子で、次のいずれかの条件を満たしている者
 - ①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
 - ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者
 - ③その他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると大学が認めた者

障害のある学生については、それぞれ障害の種類や程度が異なるため、教務課と学生課が協力して、どのような支援の要望があるかを当該学生に詳しく聞き取りを行った上で、手話通訳を付けたり、拡大コピーした資料や試験問題を作成するよう授業担当教員に要請したりして、可能な限り学生の要望に応える体制を整えている。

社会人及び科目等履修生については、栄養士や保育士、教員免許等の資格を本学で取得することを目的としているケースが多いため、資格関連科目の担当者が特に配慮して声をかけたり個別の質問に応じたりして、当初の目的が達成されるよう支援している。社会人入学生については、入学直後から学科会議の話題に取り上げ、クラス担任が学業の様子を報告すると共に、必要な支援を行ってサポートしている。

6【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

本学は、昭和41年度よりクラス担任制を取り入れ、学生と教員との関係を重視する伝統がある。クラス担任は学生の学修や生活の相談に応じており、遠隔地から入学する学生が多いこともあって、両親の立場に立った学生一人ひとりを大切にする学園の風土ができています。新任の教員が次々に着任しても、こうした教育的伝統が確実に受け継がれていることは、本学が誇るべき特色であると考えています。

本学園には、従前から学生に対する表彰制度として「ブルーム賞」がある。これにつ

いては、スポーツ、課外活動、学内行事、ボランティア活動等に積極的に参加した学生・団体を教員が推薦し、学生支援委員会が選考して表彰を行っている。また平成 21 年度には、学生に対する表彰制度を充実させるため関係規程を全面的に見直し、在学中の学修の努力が報われると共に、学位記授与式等で顕彰されるよう大幅な規程改定を行った。

また、近年の経済的に不安定な社会状況にも対応できる奨学事業でありたいという願いから、援助奨学金制度を刷新し、経済的に困窮しているより多くの学生の救済に対応できるよう規程を改めた。以上の改定により、本学園の奨学事業を更に充実させることができたと考えている。

- ◆参考資料 35 (再掲)「学校法人行吉学園奨学事業に係る授業料免除・奨励金授与規程」参照。
- 36 (再掲)「行吉学園学生表彰規程」参照。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点求められることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし。